

邦訳に当たっては、フランス語訳やドイツ語訳と比較対照させながら翻訳作業を進められている旨を話してくださいました。先生の学問・研究に対する緻密で厳格な妥協を許さない姿勢をかいま見た瞬間でありました。『確率論』の邦訳は、東洋経済新報社から刊行されているケインズ全集の第8巻として上梓されると聞いております。経済学者のみならず数学者や哲学者を含め、多くの研究者が鶴首して待っているであろう、このケインズの最初期の論文の初邦訳が完成するのを私も心より楽しみにしております。

佐藤先生の最近の興味・関心は時代を遙かにさかのぼり、メソポタミア文明にまで至っておられました。事実、古代メソポタミアの楔形文字の原型の解読にほぼ成功した、ハンス・J・ニッセンらのグループの研究成果を学部の「社会思想史」の講義材料として数年来取り上げていたようで、私も先生から、最古の粘土板といわれるものには会計簿の類が多く、その解読からメソポタミアの時代にはすでに複式簿記の萌芽が見られるなど、興味深いお話を楽しく伺いました。また、退職を目前に控えた2006年12月から翌年の1月にかけて、先生の研究室にある膨大な数にのぼる書籍の整理のお手伝いをさせていただく機会がありました。その時にお手伝いに来ていた現役のゼミ生の姿や、さらに研究室では、これまでに卒業していったゼミ生から贈られた色紙や記念の品々を目にし、先生が学生たちから尊敬され慕われていた様子が伝わって参りました。

「ここ数年で体力がめっきり落ちた」とおっしゃっておられましたが、それでも毎週火曜日と水曜日には、先生がゆっくりとではあっても、しかし夔夔と大学構内を闊歩する姿を拝見するたびに、嬉しさとともに安堵の胸をなでおろしておりました。私自身、先生から受けた学恩に報えるよう、また少しでも喜んでいただけるようにと念願して、日々研鑽を続けていくことを心に誓っております。そして、今はただ深き感謝の心を持って、先生のますますのご健勝をお祈り申し上げます。